

企画部会の取組

ウッド・チェンジアクション推進会議の活動方針

ウッド・チェンジの目的

- ・ 森林資源を循環利用し、森林の多面的機能を最大限に発揮させる。
- ・ 「木の文化都市」として人や投資を呼び込み、活力あるまちをつくる。



推進会議の目的

- ・ 民間建築物等における木材利用の機運醸成
- ・ 木材を利用しやすい環境づくり



目指す木材利用

- ・ 利用量の確保（市内産、府内産、その他国産の優先順位で）
- ・ 都市の総合的な価値の向上につながる質の高い使い方
- ・ 市民・企業等へ木の魅力や木材利用の必要性を伝える効果的な使い方

活動体制と活動内容

全体会議

ウッド・チェンジの推進に有益な情報の収集・共有、会員への周知等による発信、**個別課題の成果の周知***

木材サプライチェーンの強化

木材の魅力発信

木材利用のメリット検討

企画部会 1

1 目的

利用者が求める市内産木材の供給力向上に向け、住宅用木材サプライチェーンを強化する。

2 取組内容

市内産木材を多く利用した住宅の設計や木の仕様書の作成、建築業界が使いやすい手引書の作成などに取り組む。

3 メンバー

- ・設計（京都府建築士事務所協会、京都府建築士会）
- ・建築（京都府建築工業協同組合）
- ・木材供給（京都府木材組合連合会、京都木材協同組合、京都市域産材供給協会）
- ・京都市

企画部会 2

1 目的

家庭や企業のオフィス等、身近に木を取り入れてもらえるよう、木の魅力や利用方法を広範かつ多彩に発信する。

2 取組内容

事業者等へ木の良さを発信するとともに、事業者向けのツアーに取り組む。

3 メンバー

- ・京都銀行
- ・京都市住宅供給公社（京安心すまいセンター）
- ・京都木材協同組合
- ・京都市

企画部会 3

1 目的

企業や個人が木材利用に取り組む動機付けとなる仕組みを構築する。

2 取組内容（案）

建築物における木材利用量の見える化や、その価値に応じたインセンティブの付与の仕組みを検討する。

3 メンバー

- ・(株)三菱UFJ銀行、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
- ・全日本不動産協会京都府本部
- ・京都府宅地建物取引業協会
- ・京都木材協同組合
- ・京都市

※企画部会は個別課題の企画・検討を実施し、成果の周知や実現は全員で取り組む。

企画部会 1 木材のサプライチェーンの強化

○ 令和5年度の実施内容

- (1) 市内産木材（スギ）を活用するための住宅モデルプランや木の仕様書の作成、説明会の開催
- (2) 原木市場、製材所等の見学会の開催を通じた設計・施工業者と製材・加工業者のマッチング、市内産木材の利用を勧められる技術者の育成

素材生産業・製材加工業
(ニーズに合った木材のタイムリーかつ安定供給)

供給できる木材の情報

京都の木を使った住宅モデルプラン・木の仕様書

住宅建築における木材のニーズ

設計事務所・工務店
(京都の木を取り入れた住宅の設計・建築、木材の需要創出)

住まい方、住宅建築のニーズ

住宅建築に木を取り入れる提案

建築主（住宅の購入者）

<川上・川中>

需要を知った上で、木材や製材品を生産し、ストックできる

<川下>

木材調達の可否を踏まえて、住宅建築を提案できる。

<全体の連携>

仕様書の作成や工場見学会等を通じて、サプライチェーンの連携を強化する。

企画部会 2 木材の魅力発信

○ 令和5年度の実施内容

森林の循環利用、環境負荷の低減、木の良い効果などの木材利用の価値を発信する。

(1) 木材や森林の利用に関する取組事例等を紹介するリーフレットの作成

オフィス空間の木質化に限らず、山での植林活動等さまざまな森林の利用に関わる企業活動の事例集を発信し、幅広い企業が取り組むきっかけを作る。

(2) 企業向けの森林・林業、木材利用に関するツアーの検討

(例) 京都の木を使っている工務店や飲食店の視察ツアー
(同業者ツアーで木材利用のリアルな感想を聞く)

(例) 森林の話をしながら山歩き等の京都の森林を知るツアー

<リーフレットの掲載項目>

① 京都の木を使う意義

(地域資源の有効利用、地域経済の活性化、森林整備による多面的機能の発揮 etc.)

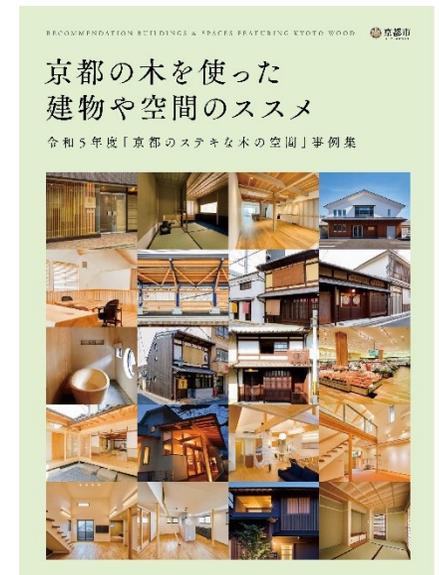
② 木材利用の良い効果

(心理面の効果、身体面の効果、室環境改善の効果、学習・育成面の効果、生産面の効果 etc.)

③ オフィス木質化の事例

(株式会社ウエダ本社におけるオフィス木質化のきっかけや働く環境づくりでの木材利用の良さについて掲載)

④ 市内の木造・木質化の事例の紹介



令和5年度ステキな木の空間事例集
(令和6年3月発行)

企画部会 3 木材利用のメリットの検討

○ 令和5年度の検討内容

企業が木材利用や森林経営保全活動に参加することにメリットを享受できる仕組みを作るため、これらの活動の社会的価値を数量化、金銭評価する方法を検討する。

(1) 木材利用や森林経営・保全活動の社会的価値評価の検討

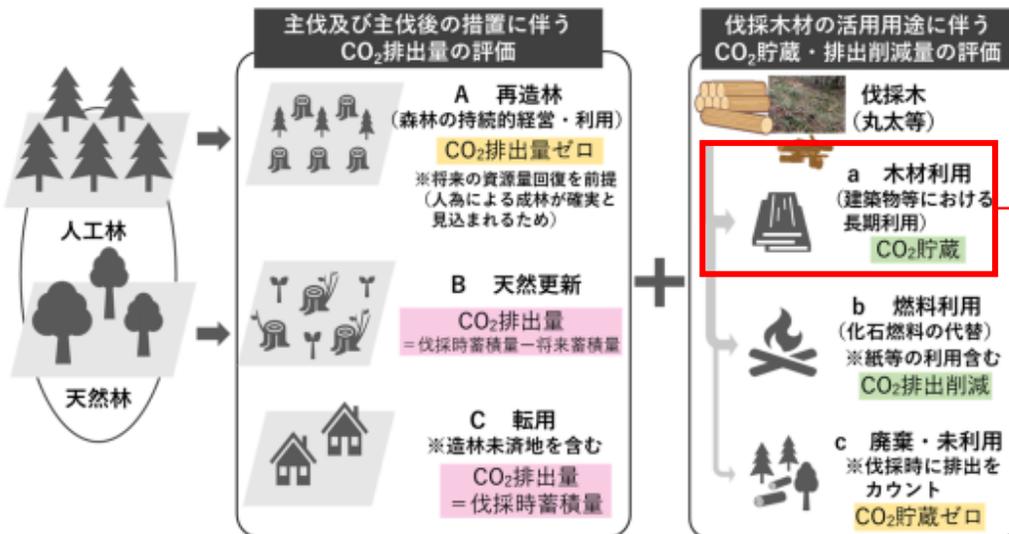
林野庁等での検証成果も踏まえ、市内の木造建築物の炭素固定量や、森林整備による炭素吸収量など、木材利用や森林経営・保全活動による社会的価値を数量化、金銭評価する方法を検討する。

(2) 木材利用や森林経営・保全に取り組むメリットを企業が享受できる施策の検討

企業が社会的価値の取引によってメリットを享受できる仕組みを検討する。

1 カarbonニュートラルへの貢献度評価

① 主伐及び主伐後の措置に伴うCO₂排出量の評価と、② 伐採木材の活用用途に伴うCO₂貯蔵・排出削減量の評価を個別又は合算して総合的に評価。



木材利用によるCO₂貯蔵量

製材向けの丸太の供給計画材積を基に、歩留まりを乗じて製品量を計算し、これに容積密度、炭素含有量、CO₂換算係数を乗じて計算

これを金銭評価し、取引できるようにする仕組みを導入することで、企業が木材利用や森林経営・保全に取り組むメリットにならないか？